

IV-19

地方都市中心市街地におけるまちのにぎわいに関する研究

秋田大学 学生員 ○阿久津 雅紀

秋田大学 フェロー 清水 浩志郎

秋田大学 正 員 浜岡 秀勝

1. はじめに

近年、様々な郊外開発等が行われている中、地方都市の駅前や中心市街地の衰退が目立っている。この中心市街地の衰退は、都市の衰退・地域社会の衰退につながると考えられ、これらを防ぐためにも、中心市街地の活性化を目的とした都市の再生を行なわなければならない。

秋田市、盛岡市、青森市は、北東北3県の県庁所在地であり、その人口や自然環境に大きな違いはなく、規模的にもそう違いはない。しかし、これらの都市に実際に訪れてみると、まちのにぎわいという面での印象が異なる。にぎわいの判断、つまり、「にぎわっている」「にぎわっていない」などの判断は、個人の主観によるところが大きい。そして、その判断要素は、その個人の状況や経験など、個人の属性によって異なると考えられる。

そこで本研究では、にぎわいの判断において、都市を構成するどのような要素を重要と考えているか。また、にぎわいの判断と街の景観を構成する要素へのイメージの関係が、個人の状況によってどのように変化するか把握し、個人の属性による影響を考慮したまちのにぎわいの検討を目的とする。

2. 研究の方法

2001年12月に実施した、にぎわいを持つ都市についてのアンケート¹⁾のデータ、サンプルを用いて、人がにぎわいを判断する際、都市を構成する要素のうち、いかなるものを重要と考えているかを把握する。

次に、都市を構成する要素から景観を構成する要素へと着目点を移し、景観に対するイメージを把握し、最後に、まちのにぎわいの面から景観を構成する要素の重要度を示す。

3. にぎわいを判断する際の都市構成要素の重要度

本研究では、にぎわいに影響を及ぼす可能性がある都市を構成する要素として、建造物・道路構造・歩行者・色使い・自動車の5項目を取り上げた(表1)。この5項目のうち、何を重要と考えるか。また、居住地

表1 都市構成要素とその内容

建造物	店舗の数、建造物の種類や規模の大きさ等
道路構造	車道・歩道の幅員、整備状況等
歩行者	歩行者の多さ、行動の種類等
色使い	色の多様性、明るさ等
自動車	交通量、走行速度等

の違いにより重要と考える都市を構成する要素がどのように変化するか、一対比較による5段階評価のデータを用いて集計を行い、その結果に非常に重要(2点)、やや重要(1点)、同程度(0点)を付け得点付けをし、その項目に重要と感じた人数で除した平均得点により、重要度の比較を行った。

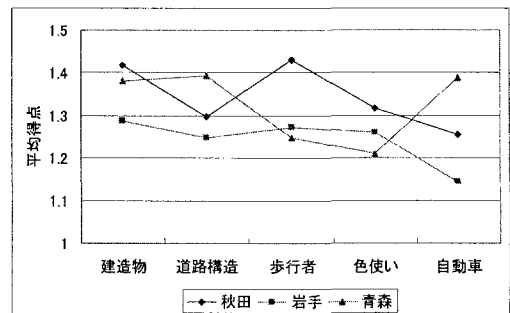


図1 居住地別の各項目の重要度

図1は、秋田・岩手・青森での各要素の平均得点を居住地別に比較したものである。秋田に居住する人は、にぎわいの判断において、歩行者・建造物の重要度が、他の要素の重要度よりも高い。盛岡に居住する人は、建造物・道路構造・歩行者・色使いの4項目を同程度に重要と考え、青森に居住する人は、道路構造・自動車・建造物に関する要素を重要とする考えが高いと思われる。また、重要と考える要素の違いから、それぞれがにぎわっていると感じるまちのにぎわいが異なると推測できる。

4. 因子分析による景観のイメージの把握

前節で、居住地によりにぎわいの判断における都市を構成する要素の重要度に変化がみられた。そこで、ここでは、写真を用いて景観に対するイメージについて把握を行った。写真-1を見たときにその景観に対するイメージを、13項目(表2)について5段階で評価

されたデータ
を使用して、
居住地別にわ
けて、因子分
析を行い、居
住地ごとの因
子負荷量のプ



写真-1

ロット図を重ね合わせ比較して、その景観に対するイ
メージの居住地別の違いを把握した。

表2 景観を構成する要素

① 人が多い	⑥ 雰囲気が明るい	⑪ 街路がすっきり
② 交通が多い	⑦ 色彩が多い	⑫ 整備状況が良い
③ 歩道が広い	⑧ 歩行に安全	⑬ 人の動きが一方
④ 歩きやすい	⑨ 雰囲気が楽しそう	
⑤ 渋滞している	⑩ 街路が単調	

図2は、写真-1の景観をにぎわっていると判断し
た人の景観に対するイメージを因子1、因子2に対す
る因子負荷量をプロットした図である。

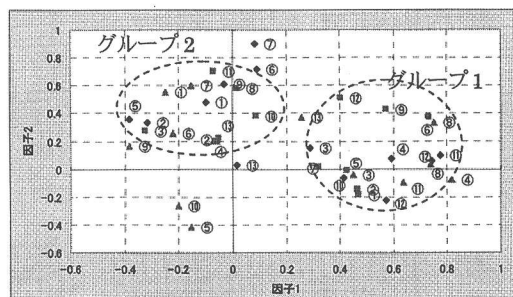


図2 因子負荷量のプロット図

因子1の因子負荷量が高いものが「④歩きやすい」、
「⑧歩行に安全」、「⑪街路がすっきり」であるから、
因子1は、良好な方向環境を表す軸と考えられる。ま
た、因子2の因子負荷量が高いものは「⑦色彩が多い」、
「⑥雰囲気が明るい」、「⑨雰囲気が楽しそう」、「①人
が多い」であるから、因子2は、景観の明るさ・楽し
さを表す軸と考えられる。

因子1の因子負荷量が、3都市すべてにおいて共通
して高くなるのは、「⑫整備状況が良い」というイメ
ージのみである。秋田・青森の「③交通が多い」、「④
歩きやすい」、「⑧歩行に安全」、「⑪街路がすっきり」
の要素は、因子1の軸における因子負荷量が高いグル
ープ1に含まれ、盛岡の同じ要素は、因子負荷量の低
いグループ2に含まれる。これは、盛岡の人は、「⑫
整備状況の良い」ということのみ秋田・青森の人と共通
の考えを持ち、その他は、反対の考えを持つことを示
す。

因子2の軸において、因子負荷量が正の範囲に多く
のプロットが見られるが、「①人の多さ」、「②交通量の
多さ」、「⑦色彩の多さ」、「⑨雰囲気が楽しそう」など
秋田・青森居住者に共通なものはみられるが、盛岡居
住者が共通なものはみられない。

5. 数量化Ⅱ類による分析

写真-1を評価したときの目的変数を、にぎわって
いる、にぎわっていない、説明変数を、景観を構成す
る要素としてイメージの把握に用いた13項目として、
居住地の違いによるにぎわいの面からの重要度の変化
を数量化Ⅱ類により分析した(表3)。なお、レンジの最
大値である青森の「⑧歩行に安全」(5.11)の半分を超
えたものに網掛けをしている。

分析の結果、青森では「⑥雰囲気の明るさ」、「⑧歩
行に安全」、「⑨雰囲気が楽しそう」、「⑩街路が単調」、
「⑫整備状況が良い」の重要度が高い。青森では「⑩
街路が単調」の重要度が高く、秋田では目立って重要
度の高くなる要素はない。

「⑥雰囲気が明るい」は、秋田では1位、盛岡で2
位、青森で3位の重要度となっていて、にぎわいには、
重要な要素と考えられる。

表3 居住地別の重要度

アイテム	レンジ		
	秋田	盛岡	青森
①	1.07	2.20	1.71
②	1.02	1.02	1.16
③	0.85	2.20	2.26
⑥	2.26	2.39	4.20
⑦	1.75	2.29	1.24
⑧	1.98	1.21	5.11
⑨	1.91	1.29	4.05
⑩	1.24	2.72	3.44
⑪	1.52	1.85	2.25
⑫	1.27	0.50	4.91
⑬	2.15	1.13	1.68
相関比	0.55	0.66	0.54

6. まとめ

属性を考慮したまちのにぎわいを検討するため、デ
ータを居住地別にわけて分析を行った。まず、居住地
別でのにぎわいの判断における都市構成要素の重要度
の違いを把握した。次に、写真-1の景観におけるイ
メージが、秋田・青森と盛岡では違いがあることがわ
かった。最後に、数量化Ⅱ類により、にぎわいの面か
らみた居住地別の景観構成要素の重要度を示した。

<参考文献>(1)石塚沙矢香「地方都市の中心市街地に見られる
にぎわいと都市構造に関する研究」、平成13年度東北支部技術
研究発表会講演概要、pp.371-373